



2024年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年7月16日

上場会社名 株式会社鉄人化ホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 2404 URL http://www.tetsujin.ne.jp
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 根来 拓也
 問合せ先責任者(役職名) 常務取締役 管理本部長 (氏名) 浦野 敏男 (TEL) 03-3793-5117
 四半期報告書提出予定日 2024年7月16日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年8月期第3四半期の連結業績(2023年9月1日~2024年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年8月期第3四半期	5,292	9.2	63	—	14	—	△14	—
2023年8月期第3四半期	4,845	9.9	△122	—	△69	—	14	△92.5

(注) 包括利益 2024年8月期第3四半期 △21百万円(—%) 2023年8月期第3四半期 13百万円(△92.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年8月期第3四半期	△1.13	—
2023年8月期第3四半期	1.08	1.08

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年8月期第3四半期	4,235	197	4.4
2023年8月期	4,322	220	4.8

(参考) 自己資本 2024年8月期第3四半期 184百万円 2023年8月期 205百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年8月期	—	0.00	—	—	—
2024年8月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年8月期の連結業績予想(2023年9月1日~2024年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,883	4.4	72	—	78	—	27	399.5	2.10

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2024年8月期3Q	13,647,362株	2023年8月期	13,647,362株
② 期末自己株式数	2024年8月期3Q	461,100株	2023年8月期	461,300株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2024年8月期3Q	13,186,149株	2023年8月期3Q	13,185,156株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報)	9
(収益認識関係)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間の国内は、経済活動の正常化が進み、個人消費やインバウンド需要が回復するなど景気は緩やかな回復基調となりました。一方、歴史的な円安が進んだことで原材料価格やエネルギー価格の高騰となり、経済の見通しは不透明な状況が続いております。

カラオケルーム運営事業におきましては、昨年新型コロナウイルス感染症の行動制限緩和以降の一定のリバウンド需要が一巡したこと、コロナ禍を契機とした二次会や深夜時間帯の需要減少が続いていることから厳しい経営環境となっておりますが、ビジネス層の利用控えが緩和傾向となっております。

飲食事業におきましては、行動制限の緩和による経済活動の正常化に伴い客数は順調な回復傾向となっており、コロナ禍前の水準程度となっております。

美容事業におきましては、コロナ禍での事業活動への影響は少なく、引続き堅調な需要が維持されております。

なお、タームローン契約の借換え等におけるシンジケートローン契約の締結に係る手数料として68百万円を営業外費用として計上しております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高5,292百万円（前年同四半期比9.2%増）、経常利益14百万円（前年同四半期経常損失69百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失14百万円（前年同四半期親会社株主に帰属する四半期純利益14百万円）となりました。セグメントごとの業績は次のとおりです。

(カラオケルーム運営事業)

当第3四半期連結累計期間におけるカラオケルーム運営事業の売上高は2,895百万円（前年同四半期比6.3%増）、セグメント利益は361百万円（前年同四半期セグメント利益157百万円）となりました。

個人消費の回復傾向に伴い年末年始の需要は例年通りとなり一定の業績となりましたが、昨年の行動規制緩和のリバウンド需要も一巡し、二次会利用や深夜時間帯利用の回復も遅れており、業績の回復スピードは鈍化しております。

しかしながら、アニメ・ゲーム等コンテンツとのコラボレーション企画による店舗は、引続き好調な業績で推移しており、全国の主要都市へ「コラボ特化型店舗」の積極的な出店を進めております。

比較可能な既存店舗※は35店舗で売上高は前年同四半期比107.7%となりました。

(飲食事業)

当第3四半期連結累計期間における飲食事業の売上高は910百万円（前年同四半期比25.7%増）、セグメント利益は44百万円（前年同四半期比15.1%増）となりました。

飲食事業は、子会社である株式会社直久が運営する「直久」をブランドとしたラーメン店舗（直営8店舗、FC6店舗、業務受託1店舗）を主力とするほか、「赤から」、「京都勝牛」、「福包酒場」を運営しております。

当事業においては、日常的な外食活動がコロナ禍前程度まで回復したことや旺盛なインバウンド需要もあり、堅調な業績推移となりました。

比較可能な直営・既存店舗※は7店舗・3事業所で売上高は前年同四半期比105.3%となりました。

(美容事業)

当第3四半期連結累計期間における美容事業の売上高は1,302百万円（前年同四半期比3.0%増）、セグメント利益は79百万円（前年同四半期比21.6%減）となりました。

美容事業は、中京エリアを商圏とする株式会社Rich to（10店舗）と首都圏エリアを商圏とするピアンカグループ（45店舗）により運営しております。

当事業では、コロナ禍でも堅調な業績を続けておりました。引続き、当事業の最重要事業戦略であるスタイリストの採用・教育に積極的に取り組むとともに出店戦略を推進し、事業拡大を進めております。

なお、新卒採用としては、昨年度85名、当年度64名となっております。

一方、経済活動の正常化と物価高を反映し、テナント契約の更新に伴い固定費であるテナント賃料が上昇傾向にあり、業績の下押しとなりつつあることから、利益重視の効率的な事業運営を進めております。

比較可能な既存店舗※は46店舗で売上高は前年同四半期比96.9%となりました。

(メディア・コンテンツ企画)

当第3四半期連結累計期間におけるメディア・コンテンツ企画の売上高は50百万円（前年同四半期比12.5%減）、セグメント利益は42百万円（前年同四半期比12.3%減）となりました。

「カラオケの鉄人モバイル」サイトを中心に運営を行っておりますが、フィーチャーフォンからスマートフォンへの乗換えが進み減収・減益となっております。

(その他)

当第3四半期連結累計期間におけるその他の売上高は134百万円（前年同四半期比78.0%増）、セグメント損失は94百万円（前年同四半期セグメント損失89百万円）となりました。

2022年3月より新事業の試みとして開始したゲームコミュニケーション事業（通称eスポーツ事業）については、引続き「TZ Game Labs」の名称でゲームイベントの企画・運営等を実施いたしました。

また、地方自治体主催のeスポーツイベントに対する企画・運営受託を実施いたしました。

※ 比較可能な既存店とは、営業開始後12ヶ月を経過して営業を営んでいる店舗で前年対比が可能なものをいいます。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比較して86百万円減少し、4,235百万円となりました。流動資産は1,541百万円となり27百万円減少いたしました。主な要因は、売掛金が53百万円増加したものの、現金及び預金が57百万円、商品及び製品が4百万円減少したこと等によるものであります。固定資産は2,693百万円となり59百万円減少いたしました。主な要因は、建物及び構築物をはじめとした有形固定資産が44百万円増加したものの、カラオケ店舗の撤退に伴い差入保証金が83百万円減少とピアンカグループに係る「のれん」が償却により24百万円減少したこと等によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は前連結会計年度末に比較して64百万円減少し、4,037百万円となりました。流動負債は1,968百万円となり919百万円減少いたしました。主な要因は、短期借入金が600百万円増加したものの、1年内返済予定の長期借入金が1,605百万円、資産除去債務が29百万円減少したこと等によるものであります。固定負債は2,068百万円となり855百万円増加いたしました。主な要因は、長期借入金が840百万円増加したこと等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は前連結会計年度末に比較して22百万円減少し、197百万円となりました。主な要因は、為替換算調整勘定が6百万円、当第3四半期純利益による利益剰余金14百万円の減少によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され経済活動の正常化が一定期間に及んだことで全事業において黒字化が見込まれる状況となっておりますが、慢性的な人手不足、物価上昇による消費控えや設備資材の高騰など、店舗運営において厳しい経営環境が続くことが見込まれます。

各事業の状況は以下のとおりです。

・カラオケルーム運営事業

当社グループの主力事業である当事業におきましては、ビジネス層の需要回復が緩やかながら進んでいるものの二次会や深夜帯時間の利用が大幅に減少しております。当事業は若年層ほど利用回復が早い状況となっているものの、都心の主要繁華街での利用回復が遅れており課題となっております。引続き、厳しい店舗運営は続くものと判断しております。

しかしながら、アニメ・ゲーム等コンテンツに特化した「コラボ特化型店舗」の業績が通常のカラオケ店舗に比べて著しく業績が好調であることから来期以降を見据えて積極的な出店を進めております。

・飲食事業

当事業におきましては、日常的な外食活動がコロナ禍前程度まで回復したことで、引続き、堅調な業績推移を見込んでおります。

・美容事業

当事業におきましては、夏季期間が繁忙期であることから当期新卒採用したスタイリストのデビューによる業績貢献を見込んでおります。また、積極的な出店戦略を進めております。

・メディア・コンテンツ企画

当事業におきましては、スマートフォンでの利用者の減少傾向により前期同等程度の減収・減益を見越しております。

・その他

ゲームコミュニケーション事業の収益化に取り組んでまいります。

以上の状況により、下期以降に各事業の業績好転が見込まれるものの、主力事業での回復遅れが見られることから、現時点における当連結会計年度の業績予想につきましては、2023年10月16日に公表いたしました2024年8月期の通期の連結業績予想に変更はありません。

※当該業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき当社グループが判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、様々な要因の変化により実際の業績はこれと異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	880,355	822,607
売掛金	266,626	320,149
商品及び製品	29,927	25,343
原材料及び貯蔵品	85,435	88,069
その他	308,175	288,073
貸倒引当金	△1,940	△2,948
流動資産合計	1,568,579	1,541,295
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	932,168	983,685
工具、器具及び備品(純額)	57,291	88,342
その他(純額)	385,947	347,434
有形固定資産合計	1,375,407	1,419,461
無形固定資産		
のれん	98,605	74,265
その他	17,456	15,176
無形固定資産合計	116,061	89,442
投資その他の資産		
差入保証金	1,246,763	1,162,933
その他	18,501	25,192
貸倒引当金	△3,271	△3,271
投資その他の資産合計	1,261,993	1,184,854
固定資産合計	2,753,462	2,693,758
資産合計	4,322,041	4,235,054

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年5月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	119,302	131,035
短期借入金	—	※2 600,000
1年内返済予定の長期借入金	※1 2,151,132	※1 546,116
未払費用	369,859	414,314
未払法人税等	15,820	30,027
前受金	5,102	11,749
資産除去債務	29,040	—
賞与引当金	19,785	13,733
ポイント引当金	18,602	18,627
その他	159,851	202,918
流動負債合計	2,888,496	1,968,523
固定負債		
長期借入金	※1 719,462	※1 1,559,729
資産除去債務	422,686	418,275
その他	71,164	90,635
固定負債合計	1,213,312	2,068,639
負債合計	4,101,808	4,037,163
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金	151,037	151,047
利益剰余金	185,778	170,857
自己株式	△170,882	△170,808
株主資本合計	215,933	201,096
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△10,348	△16,726
その他の包括利益累計額合計	△10,348	△16,726
新株予約権	14,647	13,520
純資産合計	220,232	197,890
負債純資産合計	4,322,041	4,235,054

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)
売上高	4,845,117	5,292,512
売上原価	4,260,374	4,543,685
売上総利益	584,743	748,826
販売費及び一般管理費	706,883	684,908
営業利益又は営業損失(△)	△122,140	63,918
営業外収益		
受取利息	46	194
受取保険金	—	6,099
助成金収入	52,747	22,441
為替差益	588	5,686
その他	27,233	13,224
営業外収益合計	80,615	47,645
営業外費用		
支払利息	26,884	24,029
支払手数料	—	68,554
その他	643	4,528
営業外費用合計	27,527	97,111
経常利益又は経常損失(△)	△69,052	14,451
特別利益		
助成金収入	4,718	—
資産除去債務戻入益	31,926	258
新株予約権戻入益	1,594	1,042
受取補償金	125,076	—
特別利益合計	163,316	1,301
特別損失		
固定資産除売却損	8,509	1,430
店舗閉鎖損失	30,160	1,506
減損損失	—	1,925
特別損失合計	38,669	4,862
税金等調整前四半期純利益	55,594	10,890
法人税等	41,336	25,811
四半期純利益又は四半期純損失(△)	14,258	△14,921
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	14,258	△14,921

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	14,258	△14,921
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△660	△6,378
その他の包括利益合計	△660	△6,378
四半期包括利益	13,597	△21,299
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	13,597	△21,299
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当社は当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合については、重要な加減算項目を加味し、法定実効税率を使用して計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年9月1日 至 2023年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	カラオケ ルーム運 営事業	飲食事業	美容事業	メディ ア・コン テンツ企 画事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	2,723,853	724,346	1,263,747	57,567	4,769,514	75,603	4,845,117	—	4,845,117
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	2,723,853	724,346	1,263,747	57,567	4,769,514	75,603	4,845,117	—	4,845,117
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	157,373	38,309	101,920	48,994	346,597	△89,617	256,980	△379,120	△122,140

- (注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「アニメ等コラボレーション事業」等を含んでおります。
2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△379,120千円には、各報告セグメントに配賦していない全社費用△379,120千円が含まれております。全社費用は主に親会社本社のグループ管理部門に係る費用であります。
3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	カラオケ ルーム運 営事業	飲食事業	美容事業	メディ ア・コン テンツ企 画事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	2,895,207	910,264	1,302,082	50,388	5,157,942	134,569	5,292,512	—	5,292,512
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	2,895,207	910,264	1,302,082	50,388	5,157,942	134,569	5,292,512	—	5,292,512
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	361,883	44,097	79,874	42,985	528,841	△94,410	434,430	△370,511	63,918

- (注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「アニメ等コラボレーション事業」等を含んでおります。
2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△370,511千円には、各報告セグメントに配賦していない全社費用△370,511千円が含まれております。全社費用は主に親会社本社のグループ管理部門に係る費用であります。
3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
(固定資産に係る重要な減損損失)

「美容事業」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては、1,925千円であります。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社は、カラオケルーム運営事業を主たる事業としており、一般のカラオケルームでの楽曲・飲食サービス提供の他、アニメ作品等とコラボレーションしたカラオケルーム運営をしております。その他、ラーメン店を主体とした飲食事業、まつ毛エクステ&ネイルを主体とした美容事業、着メロ等の配信を行うメディア・コンテンツ企画事業を事業ドメインとして運営しております。

前第3四半期連結累計期間(自 2022年9月1日 至 2023年5月31日)

(単位：千円)

報告セグメント	契約区分	売上高	構成比
カラオケルーム運営事業	カラオケルーム売上	2,574,927	53.1%
	コラボルーム売上	148,926	3.1%
飲食事業	店舗販売	575,959	11.9%
	卸売	54,558	1.1%
	F C	93,830	1.9%
美容事業	施術サービス	1,196,518	24.7%
	物販	61,977	1.3%
	卸売	5,252	0.1%
メディア・コンテンツ企画事業		57,568	1.2%
その他		75,603	1.6%
顧客との契約から生じる収益		4,845,118	100.0%
その他の収益		—	—%
外部顧客への売上高		4,845,118	100.0%

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「アニメ等コラボレーション事業」等を含んでおります。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)

(単位：千円)

報告セグメント	契約区分	売上高	構成比
カラオケルーム運営事業	カラオケルーム売上	2,645,185	50.0%
	コラボルーム売上	250,023	4.7%
飲食事業	店舗販売	786,889	14.9%
	卸売	50,603	1.0%
	F C	72,772	1.4%
美容事業	施術サービス	1,220,382	23.1%
	物販	80,770	1.5%
	卸売	931	0.0%
メディア・コンテンツ企画事業		50,388	1.0%
その他		134,570	2.5%
顧客との契約から生じる収益		5,292,512	100.0%
その他の収益		—	—%
外部顧客への売上高		5,292,512	100.0%

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「アニメ等コラボレーション事業」等を含んでおります。